

平成29年度 県立山北高等学校 不祥事ゼロプログラム検証結果

作成 平成29年4月

中間検証 9月

県立山北高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める。ただし、平成29年度は、県立学校重点課題総点検等を実施し、所属内の事務執行体制の実態を報告するので、平成28年度の不祥事ゼロプログラムを継続して活用する。

1 実施責任者

山北高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 取組項目と行動計画

昨年度に引き続き、今年度も次の10項目を重点課題として具体的な行動計画を作成・実施し、事後に検証を行う。また、重大な不祥事やヒヤリ・ハットの事例が発生した場合は、随時研修会や報告会等を開くことで再発の防止につとめる。

(1) 課題 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）（29年度必須事項）

取組 公務員倫理意識の徹底

目標 全教職員が法令順守の意識を向上させ、公務員としての倫理観を保持し、公務外非行を未然に防止する。

行動 公務外非行に関する外部講師、並びに校内講師による研修会を実施し、職員の意識啓発と不祥事の発生防止を図る。

公務外非行の様々な事案や報道を随時報告し、法令遵守の意識の徹底を図る。

検証 研修が実施できたか。全教職員が法令順守の意識を高めたか。公務外非行の発生がゼロであったか。

検証結果 29年度の事故防止研修は「教職員の綱紀の保持」というテーマで行内研修をスタートさせた。不祥事の事故例を取り上げ、法令順守、規範意識の向上等に認識を深め、周知を図ることができた。また、朝の打ち合わせ時に新聞記事等を取り上げ職員の啓発活動に日々努め、平成29年度職員の公務外非行はゼロであった。

(2) 課題 わいせつ・セクハラ行為の防止（29年度必須事項）

取組 スクールセクハラ防止

目標 全教職員がスクールセクハラを正しく認識し、該当事案を未然に防止する。

行動 セクハラ（スクールセクハラ）やわいせつ行為に関する外部講師並びに校内講師による研修会を実施し、職員の意識啓発と不祥事の発生防止を図る。

検証 研修が実施できたか。全教職員がスクールセクハラを正しく認識できたか。スクールセクハラのほか、セクハラやわいせつ行為の発生がゼロであったか。

検証結果 校内研修により事故防止研修会を実施した。「教職員の綱紀の保持」「パワー・ハラスメント」「セクシャルハラスメント」というテーマで校内研修会を実施。特に、例年教育実習者受け入れに向けて、セクハラをテーマに校内研修を実施した。スクールセクハラについても常に啓発活動を展開し、生徒との対応の在り方について理解を深めた。29年度のスクールセクハラ、わいせつ行為はゼロであった。

(3) 課題 体罰、不適切な指導（29年度必須事項）

取組 体罰や不適切指導の根絶

目標 全職員が体罰や不適切指導を未然に防止する。

行動 体罰不適切指導についての研修会を実施し体罰や不適切指導の状況についての確認を行う。

検証 研修会を実施することができたか。体罰・不適切指導の根絶に向けて、全職員が一丸となり取り組む体制ができていますか。体罰・不適切指導の事案はゼロだったか。

検証結果 「運動部活動における体罰の防止」と「いじめ事案」というテーマで4月当初に生活支援グループとの共同で校内研修会を実施し共通理解を深めた。新しく着任された方にも本校の取り組みを説明し「体罰」「いじめ」についての周知を図った。生徒間による「いじめ」アンケートを実施、気になりアンケートには個別面談を実施するなど、きめこまかく対応を行い大きな問題に発展するような事例は無かった。また、日頃から職員には「いじめ」について注視するよう働きかけ「いじめ」の正確な認知に関する教職員間での共通理解を図った。職員による体罰事案はゼロであった。

(4) 課題 進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止（29年度必須事項）

取組 生徒の進路実現への適正な取り扱い

目標 全職員が進路業務のマニュアルに従って適正な取り扱いに徹する。

行動 進路業務及び調査書の請求から発行、生徒の手に渡るまでの流れの周知を研修会等で図り、共通認識で業務に当たることを確認し、実践する。

検証 進路業務が適正に行われて、生徒の進路実現が達成できたか。

結果検証 チェックリストに基づき資料の作成、取り扱い、点検、確認を実施、個人情報などの資料は色紙を使い視覚からのチェック体制の確立に取り組んだ。指定校の資格審査等、入選基準の確認は二人体制で実施するよう周知して取り組んだ。チェックシートにより事故も報告はなくゼロであった。

(5) 課題 調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止（29年度必須事項）

取組 事故なき成績処理と調査書、通知表等の正確な作成

目標 正確なシステム操作と点検業務の確実な実施により、間違いなく作成する。

行動 調査書の重要性を再確認し、正確な業務運営を図る。

検証 成績処理業務が事故なく運び、調査書、通知表等が正確に作成できたか。

検証結果 績処理については、事前に成績処理マニュアルを配布し手順の確認を行い周知した。成績の確認作業は二人制で実施した。成績処理に関する事故はゼロであった。

(6) 課題 会計事務等の適正執行（備品の現物照合）

取組 適正な会計処理の徹底

目標 不適切な会計処理を未然に防止する。

行動 財務調査における指導を生かすため、適正な会計処理に関する研修会を実施する。年度当初に対策の徹底を図ることが肝要なので、不祥事ゼロプログラムが確定する以前であっても、できるだけ早い時期に適正な会計処理についての研修会を実施する。

検証 早い時期に研修会が実施できたか。研修会により職員に適正な会計処理の意識づけを図ることができたか。年間を通じて、不適切な会計処理が1件も行われなかったか。

検証結果 会計業務の研修会を年度当初に実施。請求する側の注意点、事務処理側の留意点を整理して伝達し指導を行った。会計監査、および財務事務調査等において、前年度の指摘事項は改善され今年度においては特別な指導はなかった。部活動関係の会計処理については来年度以降新たな取り組みを展開し改善を図っていききたい。

- (7) 課題 **個人情報等の管理、情報セキュリティ対策(パスワードの設定、誤廃棄防止) (29年度必須事項)**
- 取組 携帯電話への個人情報の適正な登録の徹底
 目標 携帯電話の個人情報の不適正な登録を未然に防止する。
 行動 個人情報の取り扱いに関する研修会を実施するとともに、各教職員の個人情報登録状況についての確認を行う。
 検証 研修会が実施できたか。携帯電話への個人情報の適正な登録について、徹底が図られたか。個人情報の不適正な登録をしている者がいないか。
 検証結果 個人情報保護条例に基づき、校内研修会を実施。共通の理解を図った。個人情報の扱いについて校内にある要綱、規定等の見直しを行った。また、生徒の携帯番号やメールアドレス等、個人情報全般の扱いについて注意喚起を徹底した。生徒とのSNSについては重大事故に発展する観点から全職員に禁止することを伝達した。若い臨任教員がテスト返却時に採点結果が他の生徒に見える状況で返却するという事故が発生した。生徒には謝罪を行い保護者に対しては説明会を実施した。事故後校内研修会を実施し再発防止に向けた対応策等、全職員で確認し、一個人の問題とせず組織として取り組むよう周知徹底を図った。新採用及び経験の浅い職員に対しては定期的に個人情報の扱いについて研修会を設けている。
- (8) 課題 **交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守**
- 取組 酒酔い・酒気帯び運転・スピード違反・人身事故の防止
 目標 酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する。交通ルールを順守させる。
 行動 交通違反、交通事故等の研修会を実施し、違反、事故、酒酔い・酒気帯び運転についての意識喚起と発生防止を図る。
 検証 研修会が実施できたか。全職員の意識啓発を図ることができたか。酒酔い・酒気帯び運転・交通事故及び違反の事案はゼロであったか。
 検証結果 職員行事が予定されている日において注意喚起した。また、春、秋の交通安全期間や年末年始等には県の文書をもとに指導した。交通違反の軽微なものはあったが、県への報告対象事案はなかった。
- (9) 課題 **業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)**
- 取組 円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。
 目標 職員が属する組織を公正だと認知し、管理職に信頼、尊敬という感情が抱けるようにして不祥事や不正行為を防止する。
 行動 不祥事防止会議で常に啓発を図る。また職員とは強固な信頼関係を築けるように尽力する。
 検証 外部講師による不祥事防止会議で啓発行動が起こせたか。毎日の朝の打ち合わせで意識喚起ができたか。職員と信頼関係が構築できたか。
 検証結果 職場における業務執行体制については、日頃からの取組み、チェック体制の確立をめざし、教員相互のコミュニケーションをしっかりと築きながらお互いを高められるよう啓発に取り組んだ。職員会議等の後に短い時間ではあるがこまめに研修会を持ち常に事故防止に取り組む環境づくりに取り組んできた。
- (10) 課題 **入学者選抜試験事故防止(入学者選抜全般、願書受付、学力検査、採点業務、選抜業務、)**
- 取組 マニュアルの読み込みを徹底する。円滑な入学選抜と公正で正確な採点業務を行う。
 目標 業務執行体制の確立を図り事故ゼロを目指す。
 行動 校内研修会を実施し、不明な点が無いよう情報共有を徹底する。マニュアルにそった採点業

務の実施。チェック体制の確立を図る。1日の振り返りの実施。

検証 徹底した研修会ができたか。疑問点を全職員で共有できたか。毎日の朝の打ち合わせで意識喚起ができたか。職員と信頼関係が構築できたか。

検証結果 入学者選抜の学力検査において、採点システムに一部変更があることから教科別、グループ別打合せの時間をしっかり確保して内研修会を積み重ね採点ミスゼロを目指して取り組み実践した。重要な資料は色紙を使い視覚からのチェック体制の確立に取り組んだ。

3 中間検証

9月、中間検証実施予定。不祥事防止のために全職員を対象とした個別面談を6月に実施予定。

4 備考

平成30年2月上旬までに、それぞれの課題の検証についての実施状況を確認し、未実施があった場合は平成30年2月中に補完措置を講ずる。また、年度途中に目標達成に向けての行動計画を修正する必要が生じた場合は、必要な修正を行う。平成30年3月初旬にそれぞれの課題についての実施状況を確認するとともに、目標達成についての自己評価を行う。その結果を次年度における「山北高等学校不祥事ゼロプログラム」の策定に生かす。

○本校では、事故防止を教職員一人ひとりが自らの課題として受け止め行動していくことを目的に、全職員による事故防止会議を開催し、定期的に振り返りや検証、確認作業、注意喚起を実施している。

○個人情報の管理においては、法改正により取り扱いが詳細に明記されていることから全職員で理解するための外部講師を招いての研修会を行うなど周知する必要がある。

○職員一人ひとりが危機管理意識を常に持つこと、また、各学年、グループ、教科等の組織としての事故防止や人材育成を含めた取り組みが必要である。

○いじめ事案の対応では、マニュアルを周知し、全職員の共通理解をもって初期対応に心がけ対応することを再度確認した。

○今年度の入学者選抜学力検査の採点においては、マークシート方式の採用も2年目となるが一部変更もあることからマニュアルの読み込みや共通認識を深める為の校内研修会を全体会、グループ会、教科会に分かれて実施した。中学生、保護者の立場に立った慎重な業務への取り組みと全職員の協力のもとミスゼロを目指した目標は達成された。

○管理職への信頼が不祥事や事故を防ぐと考えるので、管理職自らが、職務への使命や責任を再確認して、組織としての相互理解や協働意識を持ち、一つの目標に向かう一体感や高揚感が深まるように、一人ひとりの士気を高め、事故防止に努めたい。